

328 中央大学実業講演会

〔『法学新報』第23巻3 (262)号 大正2年3月4日〕

○中央大学実業講演会 去二月九日(日曜日)午後一時より其
第一回実業講演会は中央大学第二十六教室に於て開催せられ奥
田学長の開会の辞に次ぎ石原毛登馬氏は南米視察談を試み堀光
亀氏はパナマ運河の日本経済上に及ぼす影響に付き堀越善重郎

氏は貿易振興策に付き講演せられたり聴衆数百名、一同此有益にして熱誠なる講演に酔はされ彼の欧米諸国現時の盛況及び将来の発展に対し我国商業界か而今以住大飛躍を要することを知り感奮興起せざるなく会長関博士閉会を宣し尚ほ引続き奥田学長を始め関会長、来賓堀越石原両氏、堀中島川村原の諸講師、佐藤幹事其他中央大学出身実業家十数名並に会員六十余名は食堂に相会して晚餐を共にし原中島両講師、高崎前田、梶尾諸氏の面白き談話あり尚ほ特に久米、中山両氏の寄附に係る風谷の講談、小さんの落語等ありて興を添へ一同歓を尽し関会長の挨拶ありて其散会したるは十一時を過く(委員報)